



説明文 指示語

▼指導ページ P 4～11▼

☆指導のポイント☆

- (1) 指示語が指し示す内容
→ 「前にある場合 = 順次にさかのぼって探す」
「後ろにある場合 = ①倒置文の場合 ②(・・・とは、こういう意味だ)などの書き出しの場合」
- (2) 指示語と指し示す語句や部分を入れ替え→意味が通るか確認
- (3) 字数もヒント。文末表現や助詞の使い方にも注意。

板 書 例

練習問題

【話題】
魚が集まるのは「色」「音」を識別できるか

「色」がわかるか

①構造
②識別能力

①マス養魚場の番人の気づき
②ドイツの研究者の実験

音
音がわかるか

①マス養魚場の番人の気づき
②ドイツの研究者の実験

魚が高い音と低い音を聞き分けることが分かる

森林破壊をやめよう 筆者主張

森林破壊は地球全体に影響

←

雨林の役割

①まわりの気温を下げる
②河川の水の量を調節する

↓ ↓ ↓

森林破壊 ↓ 森林破壊 ↓ 山くずれなど

↓ ↓ ↓

森林破壊 ↓ 森林破壊 ↓ 山くずれなど

熱帯雨林のなくなる理由

「人口増加」 + 「経済的に貧困」

←

「生活のため」 + 「輸出用作物生産」

↓ ↓ ↓

森林を畑や牧場にして農業。

基本問題3

【話題】
「アマゾン地方の森林破壊」

基本問題1

(1) 「そこ」 場所 出かけた所 ↓ 「教会」

(2) 「それ」 事柄 上達しないこと ↓ 「英会話」

(3) 「これ」 事柄 ながてなこと ↓ 「早起き」

(4) 「それ」 事柄 深い意味のあること ↓ 「名まえをつけること」

(5) 「それら」 事物 好まれてきたもの ↓ 「月や花や雪」

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P6)	指示語が「場所」「人」「もの」「事柄」を指しているかおさえさせる。 (5)は「それら」=複数の事物のつながり示していることに注目。
基本問題2	字数もヒント。文中の言葉を「使って答える」ことに注意。
基本問題3 (P7)	問一 直前の部分に注目。 問二 産物 = 木材、コーヒー、ココア、ヤシ油、ゴム = 5つ 問三 話題・問題提起は最初の部分に提示。 問四 森林の果たす2つの役割のうち、気温の変化に関わる役割を指示。 問五 直前の部分。アマゾン地方の森林破壊という内容の記述に注目。
練習問題 (P8)	問一 「話題」は最初に提示。第2・第5段落の書き出しにも注意。「色」と「音」の2点をあげさせる。 問二 ① = 「～でしょうか」の繰り返し。「選択」の接続詞。 ② = いつもえさを「やる」のに、その日は「やらない」。「逆接」の接続詞。 問三 直前の部分から探させる。 問四 直後の部分から「目」に関する事柄と判断。指示部分を「11字で書きぬかせる」ことに留意。 問五 「皿」は「青」と「赤」の2種類。「えさ」という語に注目。「えさをのせる」=「青い皿」。 問六 「赤い皿」=実験者が「いじめる」に注目。「魚」が主語の文。「～される」となることに注意。 問七 番人が「心の中で自分に語った」部分。話し言葉で書いてあるので、その箇所を注目。 問八 「番人」→「立つ」・「マス」→「～様子」という語句の組み合わせに注目。 問九 話題となっている「日」がどんな日か。段落の最初に示されていることに注目。 問十 「実験」つながりで「色の実験」に注目。「えさを与える・与えない」方法の使用を推測させる。

☆指導のポイント☆

- (1) 基本的指導 = P12 接続語の種類(1)～(6)について、文中での役割や意味を確認。
- (2) 指導留意点 = 接続語が「文章の内容理解」の補助的な役割をはたす語のひとつであることを理解させる。

板書例

練習問題

【話題】 土の棒の正体

・ 茶色で長さが二十センチほどのまるく太い棒
 ・ どんな図鑑にも出ていない謎の物体だと結論づけてみる

◎想像力を働かせてみる：延長線にある一本の線
 ↓雪の下に掘られたトンネルではないのか？
 ・ 土の棒の端のどちらかを指先で押してみる

田んぼに雪が積もったあと、モグラが雪の下にトンネルを掘った

すべての入り口を、地中からかき出した土でふさいだ↓モグラの生きるための知恵

基本問題 1

それとも(選択) (2) ただし(補足) (3) しかし(逆接)

そして(並列) (5) だから(順接) (6) たとえば(例示)

そのうえ(添加) (8) なぜなら(理由) (9) ところで(転換)

すなわち(ことばを変えて説明)

基本問題 2

(1) 「から」に注目＝理由「なぜなら」 (2) 「名前・並列」＝「および」

(3) 「事柄・並列」＝「また」 (4) 理由↓結果＝「それで」

(5) 「反対の内容」＝「しかし」

基本問題 3

【話題】 ヴォイストレーニングの基本的な考え方

↓ いつでもいい声を出せるようにする

「どのような状態で声が出るのか」 ↓ スポーツのあと

理由

① 体が運動の後で柔らかくなっている
 ② 汗をかき、循環機能もよくなっている
 ③ 声帯も適度に使いやすい状態

↓ 声が出やすい

声が出てしまうような体の状態 ← 逆 声が出にくい＝体の動かないとき

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P14)	接続語の習得 = 「前後の意味のつながり」を把握させる。「役割」を理解させる必要。同種の接続語に置き換えさせる練習など。
基本問題 2	前後の文の意味を比較→つながる後の部分の語にも注目→接続語を選択。
基本問題 3 問一 (P15) 問二 問三	「しかし」は逆接。「しかし」の代わりに使えるのは「でも」。逆接は他に「だが」「ところが」「けれども」。 「つまり」は説明。アは選択、ウは並列・添加、エは転換。 運動後の体の状態をいくつもあげている。「さらに」は並列・添加なので、アの「おまけに」とオの「そのうえ」。 イは転換、ウは説明、エは逆接。
問四	直後の説明の接続語「なぜなら」に注目。
問五	直後の文が同様の内容であり、わかりやすく言い換えられていることに注目。
練習問題 問一 (P16) 問二 問三 問四 問五 問六 問七 問八 問九	直後の文と逆接の接続語「でも」に注目。田んぼが雪が降る前とちがう様子であることがわかる。 直後の段落の「黒々としたかたまり」の説明部分に注目。 直前の段落で描写されている雪の下の草の様子に注目。 指示語「そう」は前の内容を指すので、直前の部分から探させる。 前後は逆接の関係であることに注目。したがって逆接の「でも」が入る。 次の段落に注目。トンネルの「入り口」は地表にあいたあな。いつできるのかに注目する。 モグラの動作を順にのべている。よって添加の「そして」を選ぶ。 ⑤以降の「土の棒」について述べられている箇所注目。 前後が結果と理由の関係になっていることに注目。説明の「つまり」が入る。

3

物語文 とき・ところ・人物・できごと

▼指導ページ P 20～27▼

☆指導のポイント☆

- (1) 「いつ」「どこで」「だれが[主な登場人物]」「何[どんなできごと]が起こったか」をおさえる。登場人物の入れ替わりや新しいできごとの変化=場面転換に注目させる。
- (2) 心情[感情]を反映した景色[背景]は「情景」。場面と関連して「情景」をおさえる。「情景」を通して人物の気持ちやできごとを工夫して表現していることに気づかせる。「情景」から「人物の気持ち」や「できごと」を考えさせるのが今回のねらい。

板書例

<p>基本問題1 登場人物 大造じいさん</p> <p>その日 ① 大造じいさんは自分がしかけた針でがんを一羽つかまえた ② がんは一晩たてばわすれると、同じわなをしかける。 (時のうつりかわり) 場面が変わる</p> <p>翌日 ① 意外なことに、がんは一羽もつかまっていなかった ② がんの棟梁 残雪がえさのとり方を仲間に指導 (時のうつりかわり) 場面が変わる</p>	<p>基本問題2 登場人物 ハンノキ</p> <p>朝 ① 一機の飛行機 小さい・銀色に光った ② 広島上空で方向かえる 強い光 ↓ 強い風 ③ 気をうしなう (時のうつりかわり) 場面が変わる</p> <p>午後 ① 気がつく 根もとからかたむく・南側の葉がうす茶色 ② 立っていた練兵場 地獄のまん中 おおくの死人・けが人</p>	<p>練習問題 登場人物 ヨシコ・赤い大きな目の人間(宇宙人)</p> <p>部屋 広い・おおくのまがったパイプや変な機械がある ① 宇宙人の考え 地球人はざんこく、戦争をする ↓ 地球人が科学の進歩により宇宙へ ↓ 宇宙の平和をおびやかす ↓ 今のうちに地球をほろぼす ② ヨシコの宇宙人への約束 戦争のない地球にする (あたりがぐらくなる) 場面が変わる</p> <p>病院のベッドの上 ① ヨシコの話 自分が宇宙人に約束 戦争のない社会にする 地球をすくった ② おかあさん その話を信じない</p>
--	---	---

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P22)	問一 じいさんの一晩たてばがんは忘れるという考えに注意。その日とその翌日は、同じ場所 = 「ぬま地」。 問二 直後に指し示す内容があるパターン。「すばらしい」→「喜び」→「うれしく」に注目。 問三 場面が変わった→「時」の推移に注目。 問四 じいさんを不思議に思わせた事柄→がんが多数いたのに針にかからなかったこと。 問五 「感たん」の声を発する原因だから、その直前の内容に注目。
基本問題2 (P23)	問一 「時」を表す語を全文についてチェック 問二 警報サイレンや後半の地獄のような様子から判断。 問三 木のからだのつくりを表す語 = 根や葉などの語に注目。 問四 「ほく」が立っている「実際の場所」を表す語を選ぶ。 問五 設問中の「たとえば」に注意。実際の場所ではなく、その場所について比喩した表現を選ばせる。
練習問題 (P24)	問一 ヨシコの言葉に注目。「目=赤」「服=青」→うっかりミスに注意を促す。 問二 ヨシコの話が「報告」と違うことに宇宙人は戸惑う→ヨシコと宇宙人の直前の会話に注目。 問三 「宇宙人」の考え = 「宇宙」と「地球人」が関わっている内容に注目。 問四 設問文の「-星」から、本文中のヨシコの話の中で、「地球」「星」という語に注目。 問五 (1) 設問の「今まで」に注意。ヨシコが宇宙人といった部屋の様子の箇所から抜き出す。 (2) 場面転換の後の場所。 問六 「約束」の内容がその直後に要約されている。その内容を宇宙人と話した箇所に注目。 問七 場面が転換した区切り。「ぐらくなった」のは前の場所にいる時→前の場面になることに注意

4

物語文 場面の展開

▼指導ページ P 28 ~ 35 ▼

☆指導のポイント☆

場面の変化を重点的にとらえる。「時」「場所」「登場人物」「できごと」「登場人物の行為」に分けて、それぞれについて変化をおさえる。人物の心情理解につながる重要な変化であること、さらに主題の把握につながる点であることを念頭に置いて指導する。

板書例

<p>基本問題1</p> <p>登場人物の様子 春吉の想像 是信・石太郎が日なたぼっこをする情景</p> <p>是信 年より・茶色いしみのあるつやのよい頭・ねずみ色の着物 ・背をまるめている</p> <p>石太郎 是信の尻弟子 顔にくらべ耳が大きい・きたない着物・あかじみた手足</p>	<p>基本問題2</p> <p>登場人物 鬼たち</p> <p>前半 本文最初~13行目 鬼から見た桃太郎の鬼退治 桃太郎が鬼たちの留守に「宝物」・「鬼の子ども」をうばった ↓ 桃太郎 強盗 ↓ 鬼たちはくやし</p> <p>後半 14行目~最後 鬼退治 日本の人たちは桃太郎 神様 ↓ 鬼はさらに怒った</p>	<p>練習問題</p> <p>登場人物と場面 ほく(まもくん)・なおと・きつくん・タケと池で釣り</p> <p>● 強いひきになおとのさおが弓形にになる。</p> <p>なおと … なきそうな顔 不安</p> <p>ほく … ギザ歯のオオグチ ショック(不安) ↓ ブルーギル 安心</p> <p>なおと … ポーツとしている 興奮 ↑ ほく … 理解(共感)</p> <p>ブルーギル 「気色わりイ」</p> <p>ほく … 「魚に失礼」・ムツとした 反発・怒り</p> <p>なおとが逃げ出す ↑ ほく … 「しようがないなあ」 あきれ ブルーギルが弱っている</p> <p>ほく … おどろいている目に弱い 早くにがしてやりたい気持ち 心配・あせり</p>
--	---	--

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P30)	問一 石太郎・是信の様子は最初の部分に注目。 問二 設問の「想像」に注意。想像している人物は「春吉」。 問三 直前の部分に注目。 問四 「そんなときでも」の表現から「拍手をもらっても」という意になる。一般的な拍手をもらった反応と異なっていた状況を推測させる。 問五 石太郎の「尻」について記述した意味段落の始めを選択させる。
基本問題2 (P31)	問一 時間の経過による場面展開に気づかせる。 問二 「荒らした」内容→鬼の言葉に注目して探す。 問三 前半部分の内容をまとめる。文中のことばを「使って答えさせる」ことに注意。 問四 直後の「それは」に注目。「うわさ」を指し、続いて内容を説明。 問五 「鬼たち」「日本の国」の語に注目。「桃太郎」の評価が記述されている部分を探させる。
練習問題 (P32)	問一 釣りをしているので、水の出てくる場面描写を探す。 問二 「まもくん」は「ほく」のよび名であることに注意。 問三 1 は直後、2 は直前、3 は直後、4 は直後の部分に注目。 問四 17・18行目「釣りはきょうがはじめてのなおと」の部分に注目。 問五 なおとが釣ったのは「オオグチ」ではなかったことに注目。直後に「よかった」とある。 問六 直後の部分に注目。自分の体験と重ね合わせ、なおとの気持ちを想像している。 問七 直前の「魚に失礼じゃないか」という「ほく」の言葉に注目。 問八 22行目でなおとに針をはずすように言っている。その後の文に注目。 問九 最後の段落から、釣り上げられた後のブルーギルの状態に注目。

5

第1回～第4回のまとめ

▼指導ページ P 36～43▼

板書例

【話題】

鳴く虫の祖先について
二億五千万年以上の大昔、鳴く虫の祖先は生きていた
恐竜や鳥がいなかったころの地球

鳴く虫の天国 ↑ 敵が小形で、形も少なかった

・ 虫だけが翅をこすって音をだしている状況

・ 音をだして相手に自分の存在を伝えるコミュニケーションがはじまる

・ すでにセミもいた

人類をふくむ大型動物のいなかった地球 || 昆虫の惑星

2

登場人物

|| こうじ(ぼく)・おじいちゃん・お父さん・お母さん・おにいちゃん
・おねえちゃん(美佐子)・山下さん・おばあちゃん

ぼく…携帯電話のことでお母さんにしかられて、すねて納屋の段ボールにかくれている

家族…家出だと思ひ、さがし回っている

おにいちゃん…家出しようと思ったことがある ↑ ぼく…うれしい

おじいちゃん…携帯電話へ理解 ↑ ぼく…にんまり

・箱の中にカが一匹入りこむ ↓ ぼくの首すじをさす

思わすたたいてしまふ || ぼく…しまった

←よかった

おじいちゃん…鼻歌・気づかれていない

・ぼくをさがしに行っていた家族が帰ってきだす
お父さん・おにいちゃんの会話

↓ ぼく…家の事情とお父さんの考えを知る

シユンとなる(反省)

家族…家に入ってごはん

ぼく…みんなにあやまろうか(反省・迷い)

おじいちゃん…やさしい言葉と毛布、おむすび、バナナ || 気づいている

ぼく…胸がいっぱいになり、涙がこぼれる

↓ おじいちゃんへの感謝・みんなに迷惑をかけたことへの反省

ページ・問題番号

指導内容・留意事項など

① (P36)	問一	指示語の問題なので、直前の部分の「いまの～」の文から探し出し、あてはめて考えてみる。
	問二	(1)全体を通してどんな時代をのべているのかに注目。漢数字を使って表した部分に注意。 (2)第一段落、第二段落、そして終わりの二段落に注目し、一つ一つチェックする。
	問三	(1)鳴く声がどのような表現でたとえられているかに注目。 (2)「虫が鳴くこと」をなんといいかえているかに注目。
	問四	前半部分が後半部分を「説明」する内容なので、「つまり」。アは転換、イは逆接、エは理由説明。
	問五	前後がくいちがうので、「逆接」の「しかし」。アは並列・添加、イは順接、ウは選択。
	問六	文の前後は「順接」の関係なので、「ですから」。アは転換、ウは逆接、エは並列・添加。
	問七	最後の段落、第三段落から読み取る。
② (P37)	問一	場面における登場人物の人数を確認。
	問二	直前のおにいちゃんの会話から、おにいちゃんの気持ちを読み取る。
	問三	おじいちゃんが出てきてから、設問箇所までの会話の流れを読み取る。
	問四	文の前後の関係から表現を推測する。
	問五	(1)2行前の「しまった」に注目。「しまった」の原因を考える。 (2)きんちょうしたときに、からだはどんな状態になるのか想像してみる。 (3)直前の部分に注目。
	問六	夕方からだんだんと気温が下がることに注目。
	問七	おにいちゃんとお父さんの会話をおさえる。
	問八	「ぼくはいそいではいだし」から「箱の中にもどって考えた」まで、いったん外に出たことがわかる。
	問九	最後の文からこうじの気持ちを読み取る。

6

説明文 文ごとの役割・文と文のつながり

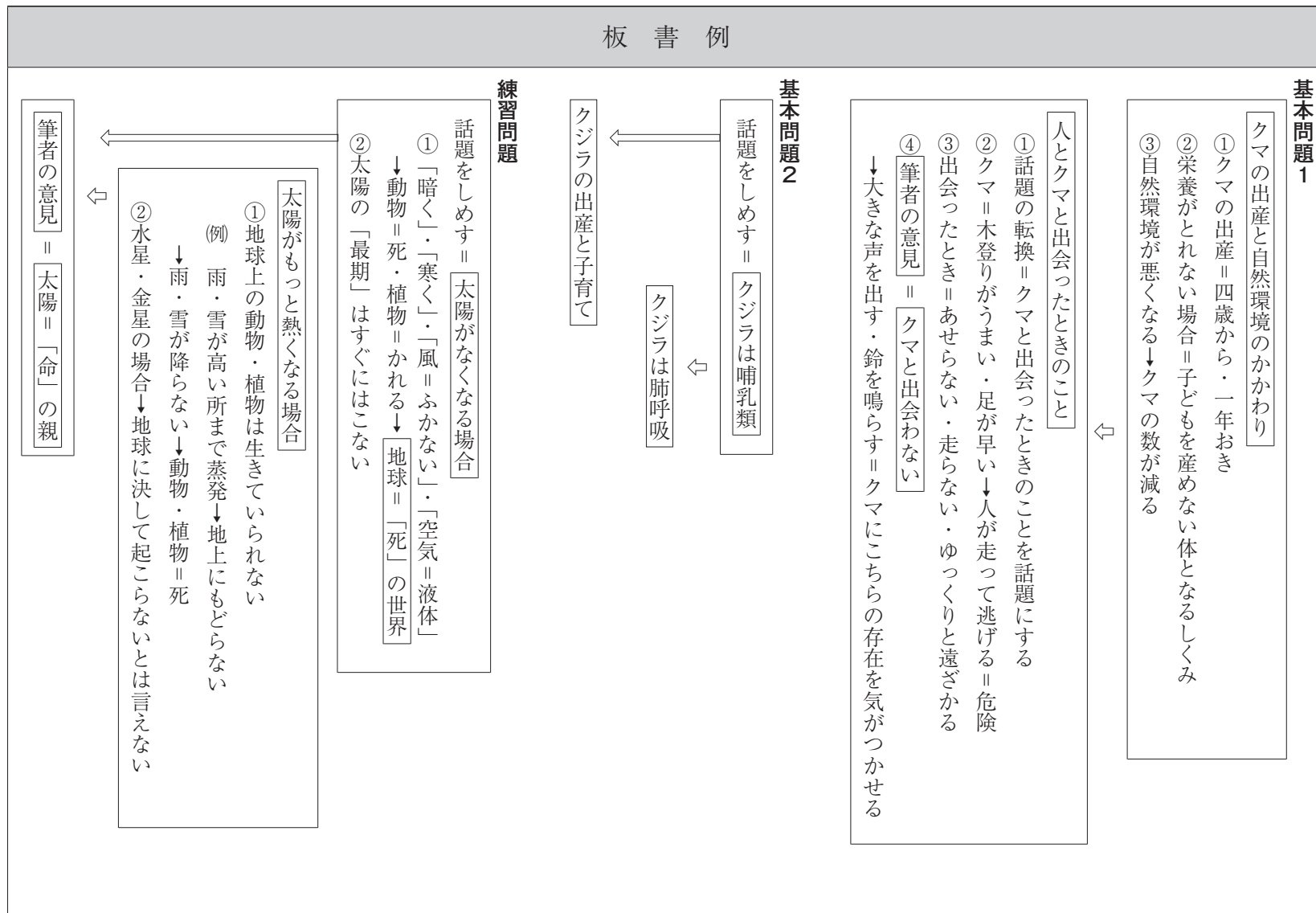
▼指導ページ P 44 ~51▼

☆指導のポイント☆

文の役割をおさえる。次に文の役割を見つける接続詞・指示語句をおさえる。

- (1) 中心的な役割をする文 ①話題・問題を示す文→ふつうは文章の初め。 ②「まとめ」「結論」「要点」を述べる文→ふつうは文章の終わり。先に結論・次に説明する文章もある。
- (2) くわしく説明する役割をはたす文→ふつうは文章の途中①たとえば=具体例 ②なぜなら～文末：～だから=原因・理由・根拠 ③つまり=言い換え ④比喩(たとえ)=～のように ⑤しかし・ところが=対照的なこと ⑥ただし=補足説明

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P46)	問一 内容の確認→「段落①」=出産の話←(反対の内容=逆接)→段落②流産の話 問二 「問題提起=話題転換」→「意味段落の区切り」に気づかせる。 問三 ③の文の「～から」に注目させる。「危険」→(なぜなら=理由)→「クマの習性」 問四 「後半=クマと人の関わり」が書いてない→ア・イは×。「戦い」は後半に書いてない→エも×。
基本問題2 (P47)	問一 内容の確認→「サメなど=魚類←(反対の内容=逆接)→クジラ=哺乳類」 問二 「説明」する文だから「～(というのは)」の書き出しに注目。 問三 小設問の「書きぬく」点に注意。直前の「(～する)ために=(理由)→(結果)」の語に注目。 問四 接続語「そして」=「並列・添加」の役割を確認。 問五 ア=「エラ」で呼吸しない=×、ウ=「エサ」をすぐとらない=×
練習問題 (P48)	問一 「直接」に注意。太陽に関わる話だが、太陽の消失や温度上昇とは「直接」関わる話ではない。 問二 「書きぬく」ことに注意。段落②・③のまとめ=段落④注目。 問三 「(その)とき」の語に注意。直前の「とき」を示す部分(=太陽の命のつきるとき)に注目させる。 問四 「何千何万」という表現=具体的な数値ではなく多数・多量をあらわす語に注意。 問五 (1) 接続語「では」=逆の視点で話題展開。(2) 段落⑨=段落⑩の「答え」が記述。 問六 直前の文中「雨・雪」→後ろの文中「水」=関連した語に注目。 問七 「(原因)→(結果)」の関係。太陽の温度が上がった結果による地球の変化の記述に注目。 問八 筆者の主張・意見=文章の最後(または「最初」)に書いてあることに気づかせる。

7

説明文 話題から要点へ

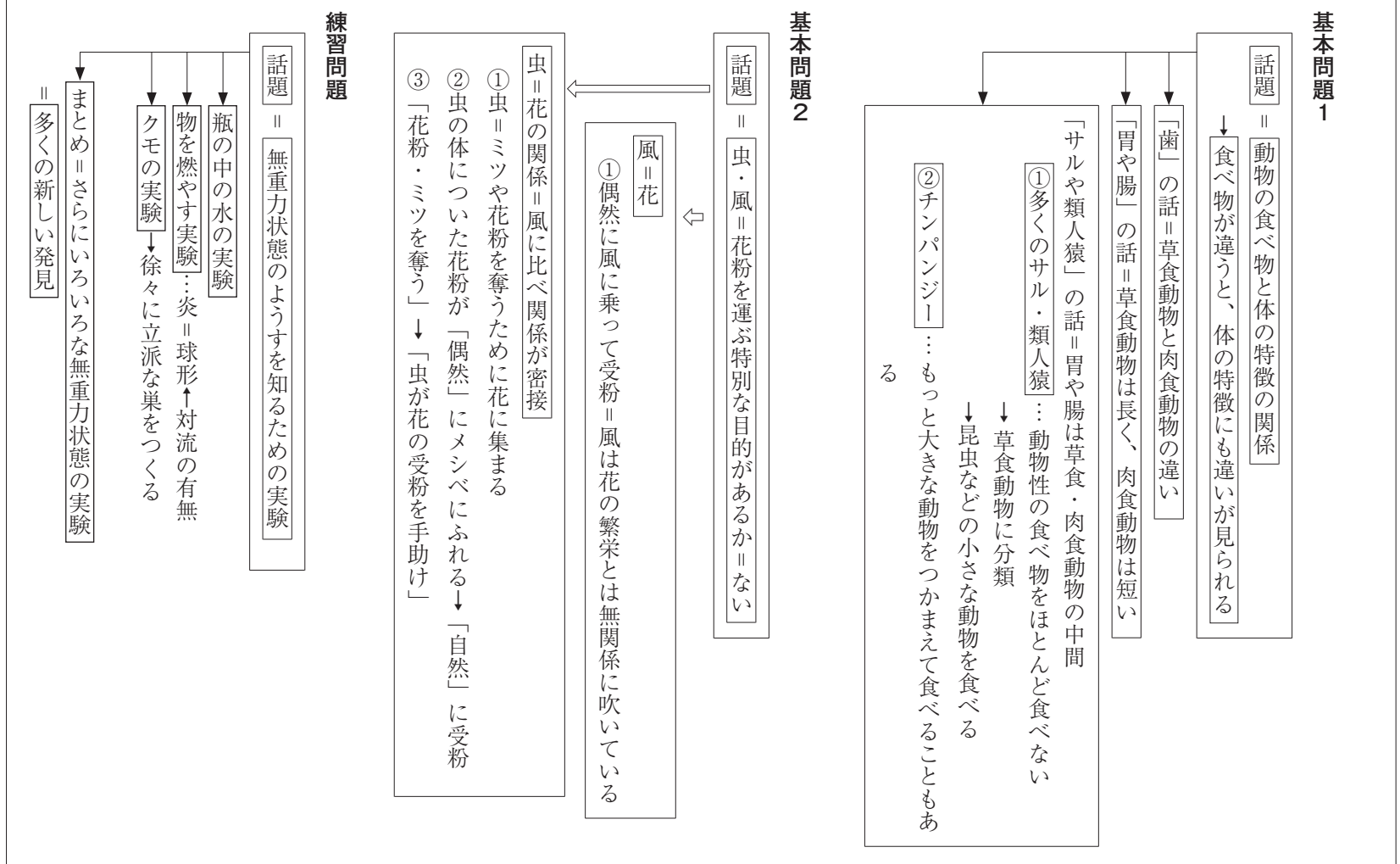
▼指導ページ P 52 ~59▼

☆指導のポイント☆

「話題」→くり返し使われている語句(=キーワード=要点をとらえるための重要な語句である可能性が高い)+文の初め(問題の提起は多くの場合文章の最初)→「話題」をとらえる。

「要点」→段落や文章の初めや終わりですとまとめる場合が多い。部分にとらわれなくて、全体を読んでから、全体の要点をとらえる。筆者が何かと比べて、特に強調している部分に注目する。「話題」にくづけしてだいたいな内容をつかむ。

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P54)	問一 文章全体の話題は、初めの部分やくり返される言葉から読み取る。 問二 段落①では何を食べると体の特徴はどうなるのか、「歯」を例にあげている。4行目の「そのため」以下に注目。 問三 「胃や腸」の形をヒントに草食・肉食動物でどのように違うのか。段落の後半部分に注目。 問四 サル・類人猿について何を中心に述べられているのか要確認。 問五 段落③の要旨を整理すること。サルや類人猿の特徴に注目。
基本問題2 (P55)	問一 「書きぬく」ことに注意。「話題」=「段落①」に注目。 問二 風と花の関わりを「具体的な事柄」を使って説明=「例示」の接続語=「たとえば」に気づかせる。 問三 直前の「昆虫」の記述部分に注意。 問四 段落③=「最初・話題提示→説明→最後・まとめ」の形。 問五 話題=「風」と「虫」の関係→並立して説明。 問六 「花に対する虫の役割=花粉をうばう→結果→受粉の手助け」=直前の部分の語句に注目。
練習問題 (P56)	問一 「瓶の中の水の実験」→段落②に注目。「物を燃やす実験」→段落③に注目。 問二 ① 段落①→段落②=「具体的な実験」 ② 段落③→段落④そのようになる「理由」 問三 直前の段落に注目。ロウソクの炎の形と時間の「地上」と「無重量状態」の違い。 問四 順接の役割「したがって」に注目。「したがって」の前にその内容が記述してあることに気づかせる。 問五 「書きぬく」に注意。「クモ」「巣」の語に注目して、字数もヒントにする。 問六 接続語の役割=逆接・順接を判断。さらに、「順接」=「理由」・「結果」としほりこませる。 問七 ①・② 「かご」の語からクモの名前は入る→最初の実験=アラベラ。次=アニタ。 問八 「文章」の要点に注目。最後または最初に「要点」が記述されていることが多いことに気づかせる。

8

物語文 人物の気持ち

▼指導ページ P 60 ~67▼

☆指導のポイント☆

登場人物の「会話」・「行動」に注目→「気持ち」をつかむ。「気持ち」をつかむポイント。

- 「気持ち」が直接書かれている部分＝「だれ」の「気持ち」かおさえる。
- 「態度」「様子」「動作」などから間接的に表す場合＝「どんな気持ち」が込められているか読み取る。
- 登場人物の「会話」から「気持ち」をつかむ＝「会話」に表された「気持ち」が本当のものか注意。
- 「場面」「情景」＝人の「気持ち」と何らかの関連。

板書例

練習問題

主な登場人物 母(重い病気)・少年(むすこ)・祖母・祖父・医者

重い病気の母と「死」ということがよくわからない少年

情景 実をほとんど落とした柿の木 喜びの少年

少年 ①母に甘える

②「死」ということがどんなことかわからない

死んだ母に会いたくて死のうとした少年

情景 赤いうれ切った二・三個実の残った柿の木

少年 ①柿の木から飛び降りる

②自分も死ねば「あの世」の母に会える

③飛び降りるときに少年の見た赤くうれれた柿の実

④会いたい母の姿

⑤死ねなかった 気がつく→祖父・祖母・医者にみまもられていた

基本問題2

登場人物 ①みゆき

子どもたち(長雄・広雄(広ちゃん)・征雄・早江・柊子)

長雄・広雄 申し出 柊子をおぶって学校につれていく

②行動 学校へ行く道の雪かき

早江 申し出 柊子の学校の道具を持っていく

みゆきの気持ち ①子どもたちの申し出

↓ 胸が熱くなる ②ありがたい

早江の申し出 ↓ うれしい

長雄・広雄の雪かき ↓ とてもうれしい

(気持ちの変化)

基本問題1

登場人物 ①みゆき(「父さん」「夫」いない)・椋十じいさん

②柊子の小学校入学の日 ③大雪の日 ④登校するとき

場所 ①みゆきの自宅

みゆきの気持ち ①雪をうらめしく思う・おどろく・とまどう

(理由) ②思ってもいない大雪 ↓

③柊子が一人で登校できない

④みゆき自身がつれていくこともむずかしい

椋十じいさん登場 ↓ 申し出 柊子をおぶって学校につれていく

みゆきの気持ち ①ありがたいと思ひ、うれしくなる

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P62)	問一 みゆきの言葉に注目。大雪→とまどう。 問二 「柊子が学校に行けない・連れていけない」ことに注目。 問三 「ため息」→「つく」 問四 柊子の入学式の日の大雪→「うらむ」気持ちを読み取らせる。 問五 「直後の会話→じいさんの言葉を繰り返して確認している部分」に気づかせる。
基本問題2 (P63)	問一 5行目「長雄」7行目「広ちゃん＝広雄」。 問二 からだの一部を使った特殊な表現に注意。 問三 2人の考え→その直前の会話＝「柊子を学校に連れていく」。指示どおりに解答することに注意。 問四 「みゆき＝うれしい気持ち」を表す語を選択。ア・イ・エは「うれしい」時の様子は表わさない。 問五 「早江の提案＝直前の会話＝道具を持っていく」→「この提案を受けた＝みゆきの話」の流れに注目 問六 みゆき＝とてもうれしい気持ち→感情の高まり→大きな声＝特殊な表現に注意
練習問題 (P64)	問一 「柿の実」＝「語句」に注目→文章中から探させる。 問二 「もどかしい＝いらいらする気持ち」を母は感じていないことを読み取らせる。 問三 「書きぬく」に注意。「死ぬ」→母のからだの様子を連想させる。 問四 「死というものがわからない」→「母に死についてたずねる」＝結果＝順接の役割の接続詞。 問五 場面転換(＝母の死の前・後)に注目。 問六 「書きぬく」に注意。少年の気持ち「落ちる」→「死ねる」＝直前の段落に注目。 問七 「木が上にいく」→「少年が落ちる」＝「少年の視点」からの表現に気づかせる。 問八 母がいると、少年が信じていたところ＝段落⑥の最初に注目。＝「あの世」 問九 「祖父たちがいる」→「あの世でない」→「母はいない」＝がっかりした気持ち。

9

物語文 人物の気持ちの変化

▼指導ページ P 68～75▼

☆指導のポイント☆

登場人物の「言動・心情の変化」に重点的に読み取る。

注目点

- 「場面」「情景」「状況」の変化
- 主人公の「表情・態度・様子」の変化
- 主人公の「動作・行動」の変化
- そのほかの人物の「表情・態度・様子」の変化
- 「どのように」「なぜ」変化したか
- 主人公の「性格」「人柄＝人物像」は全体を総合して判断

板書例

練習問題

主人公＝ぼく

主な登場人物＝ひよろ

ひよろ＝青白い少年＝気が弱い少年

ぼく＝「ひよろ」を連れまわしてみんなと遊ぶ

クリの木山のできごと＝秋

クリの木山にしのびいこむ↓見つかる↓「ひよろ」が番人になぐられる

↓「ぼく」＝逃げる↓仲間の手前「ひよろ」に声をかけない「ぼく」

翌日の学校

＝先生が「クリの木山」のことで、他のものにそそのかされたのかと聞く

ひよろの態度↓ちがう、と強く主張＝自分ひとりの責任

↓「ぼく」の気持ち

＝「ひよろ」が「ぼく」の話をすればしかられる＝不安

↓「ぼく」は「自分もやった」と言いだせない

↓ひきょうな自分＝はずかしい

(立場が反対になる)

基本問題 1・2

主人公＝ぼく(後藤くん)

その他の登場人物＝K先生・ヒトシ・ペラ・チャンコ・I君・松山ヒトシ

(主人公の気持ちの変化に注目)

小学生のとき＝学級委員長の選挙↓先生にヒイキされている＝当選

中学に入学した後＝クラス委員の選挙

投票の日の前日

①小学生のときと同じように必ず選ばれる＝うぬぼれ↓自信

(気持ちの変化)

②K先生の話＝選挙は人気投票とはちがう

↓不吉なことが起きる予感

投票の日の当日

①公約について討論＝みんなで熱心な討論

↓公約を考えてない自分＝討論に加われない

(気持ちの変化)

↓「仲間はずれ」＝悲しい

(気持ちの変化)

②投票の結果＝I君が選ばれる↓自信がなくなる＝はずかしい

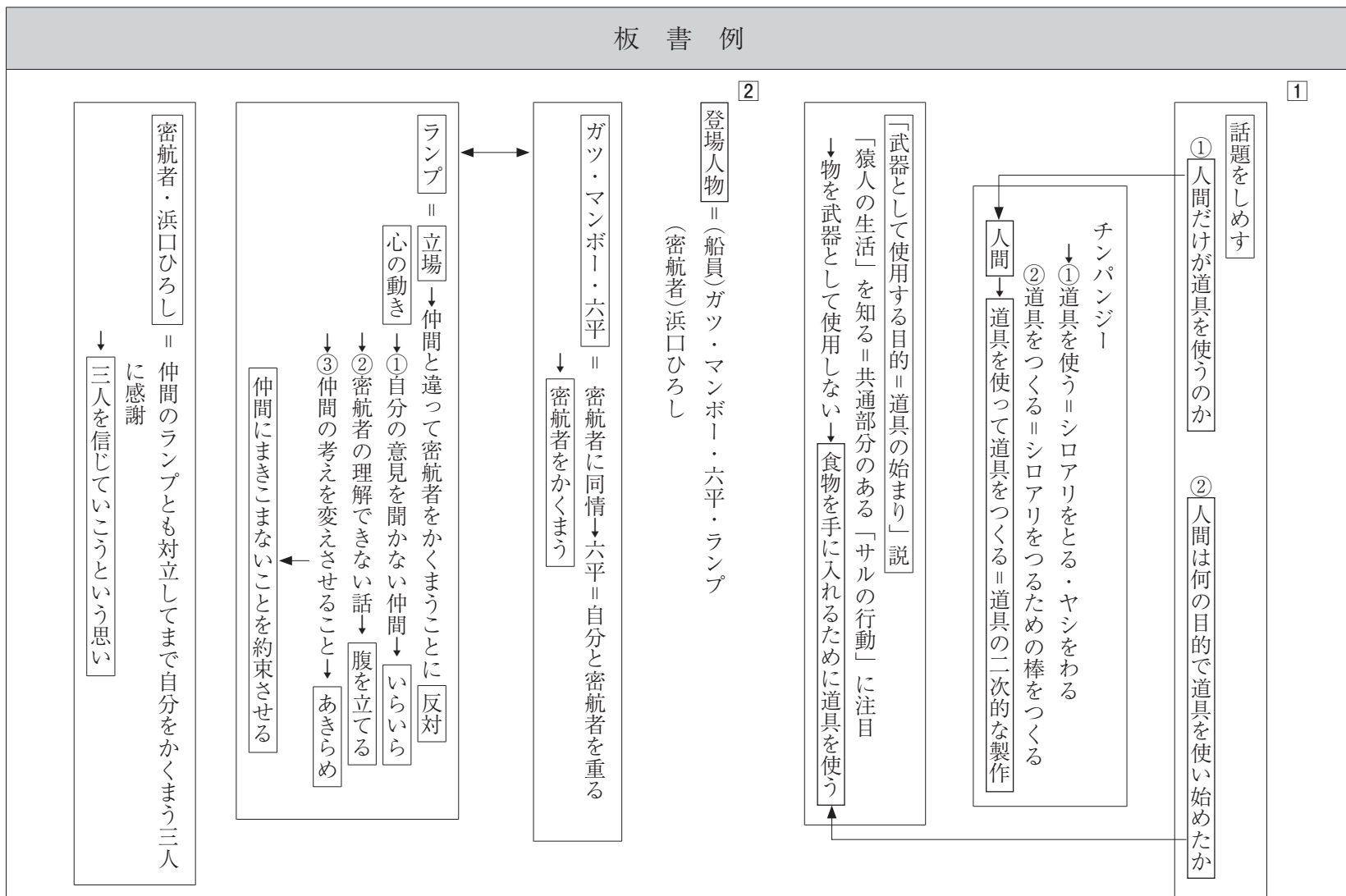
ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題 1 (P70)	問一 主人公の気持ちの変化(自信→不安→失う)は「小学生」と「中学生」のときで分けられる。段落にこだわらないで、意味から考えさせる。
	問二 考えた内容＝直前の「そんなこと」→直前の段落に注目。
	問三 意味の主旨がちがう選択肢に注目。「うぬぼれ」＝人よりすぐれていると思いきや得意になる気持ち。
	問四 「なにか小学生のときとちがう＝不安な気持ち」を読み取らせる。
基本問題 2 (P71)	問一 「めんどろ」→マイナス思考→「やらない」の通常の流れで判断。
	問二 「(ぬすみ見る)→仲間の気づかい→(なくなる)→相手にされない」場合の気持ちを推測させる。
	問三 「投票時→自信を失う＝悪い結果予想」を読み取らせる。
	問四 後の動詞から「説明する語句」を判断。
	問五 (1) 「みんなの前で自信を失う」「ヒトシをおこらせる」→「はずかしい」「後悔」の感情を推測させる。
	(2) この事件のキーワード＝主人公なりの「自信」
練習問題 (P72)	問一 「きっと……でしょう」「まさか……ない」「まるで……ような」＝決まった語句の組み合わせに注意。
	問二 場面転換＝「時の変化」＝「秋」になった箇所を注目。
	問三 直前の母の会話に注目。
	問四 (1) 友だちならば当然にかけられる言葉以外を選択。 (2) □直後の文に注目。字数ヒント。
	問五 立場が逆転＝「ひきょう」になってしまう「ぼく」の「心の変化」とそれを表す「態度」に注意。
	問六 (1)(2) 「ぼく」が「ひきょう」にならない場合の言葉を考えさせる→言えなかった→「ひきょう」
	問七 「ひよろ」の強い主張＝先生との会話に注目。

10

第6回～第9回のまとめ

▼指導ページ P 76～83▼

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
① 問一 (P76)	<p>1 「シロアリ」→「アブラヤシ」=並立 2 「～どうであろうか」=転換</p> <p>3 「先をとがらせる」→「加工」=説明 4 「持っている」→「簡単なもの」=説明</p> <p>5 「わからない」→「～できる」=逆接 6 「～から」=説明</p> <p>問二 人間だけが道具をつかうのか→答え=段落⑨に注目。</p> <p>問三 人間は何の目的で道具を使い始めたか→答え=段落⑬注目。</p> <p>問四 (1)(2) 直前の部分に注目。(1)＝「棒」「石」の一字で答えることに注意。</p> <p>問五 直後の部分に注目。チンパンジーの使った棒を調べてわかったことを書きぬく。字数もヒント。</p> <p>問六 直前の表現に注意。同じような表現の繰り返しになっていることに気づかせる。</p> <p>問七 「次に」に注目させる。話題の転換＝最初にしめされた2つの話題のうちで2番目の話題へ進んだ。</p> <p>問八 (1) 直後の文の「～から」に注目。理由が説明されている。 (2) 野生のチンパンジーの「道具」と「武器」の関わりについて書かれた部分＝段落⑬に注目。</p> <p>問九 最初にしめされた2つの話題の「答え」をそれぞれについて整理させよう。</p>
② 問一 (P78)	<p>1 「救命艇の中」→音がしない 2 19行目「がさがさ」に注目</p> <p>3 汗でぬれた様子 4 強い決意を伝える様子</p> <p>問二 ガツの「大声」→調子を変える→「語りかける」</p> <p>問三 この時点ではランプは登場していないが、船員4人のこと。全文を読んで判断。</p> <p>問四 六平は密航者の若者を見ていて思った→六平の思いを推測。</p> <p>問五 ④⑥はだれの話に対することなのか、を考えさせる。その話をした人物に注意。</p> <p>問六 救命艇の中にかくれていた「ひろし」に語りかけたガツの言葉に注目。</p> <p>問七 指示語＝直前のガツの会話に注目。ランプが反対しているガツの考えに注意。</p> <p>問八 言葉が「うわずる」＝声の調子に落ちつきがなく、乱れること＝「あせり」</p> <p>問九 その後、ガツたちの行動をやめさせることをあきらめて、ランプは新たな提案をしたことに注目。</p> <p>問十 1・2 「仲間のランプと争っても手助けしてくれる三人」＝「信じていこう」→110行目に注目。</p>

11

説明文 指示語の指し示す内容

▼指導ページ P 84 ~91▼

☆指導のポイント☆

- 指示語の種類・文や文章全体を指す指示語がどれにあたるのか説明する。
- 指示語を見つける→指示語の内容が指す文章を探す→設問に合わせた答え方を考えるという流れで進めていく。

板書例

基本問題1

話題 || 茶の間のテレビについて

指示語① ↓ 【それ】 || 置き場所の問題

↓ 日本ではテレビは茶の間にあるものと決まっている

指示語② ↓ 【それ】 || 寝室や子ども部屋に置く

↓ アメリカではテレビを見る行為はプライベートな行為

基本問題2

話題 || 「いい加減」という言葉

指示語① ↓ 【これ】 || 「いい加減」は好ましい言葉ではない

↓

指示語② ↓ 【そうした】 || ・ものごとに対して適切な処置がとれる
・感情の起伏が激しくない・いつも平静を保っている
・過激な行動に走らない・つねに節度をわきまえている

◎字義通りの意味では使われていない

練習問題

話題 || 無言のワンマンバスの運転手

指示語① ↓ 【そうした】緊張 || 多くの人の命をあずかる・運転しにくい道を走る

↓

指示語② ↓ 【そんな】とき || とげとげとした車内 ↓ みんながゆずりあう

◎おしゃべりをするのはとてもいい事

指示語③ ↓ 【そういう】 || 家族の集まる茶の間にテレビがある

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など	
基本問題1 (P86)	問一	直前の文から日本の場合の理由について述べている部分を探す。
	問二	段落後半の部分から、直接指している部分を見つけ、設問に合う形にまとめる。
	問三	日本人とアメリカ人のテレビの見方をくらべている部分に注目。
	問四	アメリカを例に日本での光景と比較していることに注目。
	問五	「プライベート」とは私的、個人的という意味。
基本問題2 (P87)	問一	日本人にとって何が「奇妙」なのかに注目。
	問二	本文7・8行目に注目。指示語が複数の文節を指している。
	問三	「いい加減」の三つの意味から好ましくないものを選ぶ。
	問四	前文の文脈のなかで「理解」しがたいものは何か。
練習問題 (P88)	問一	「緊張」が指している部分から読み取る。
	問二	直前の文からゆずりあう状況が生まれたことを指していることがわかる。
	問三	「そんなふうに思える風景」とは「問二」のような風景である。
	問四	ワンマン化をさびしがる気持ちは車掌のあたたかい言葉の消失を表す。
	問五	直前の段落④でのべられているワンマン化の初期の内容をとらえる。
	問六	録音化されたことによって、運転手の置かれた状態を指している。
	問七	具体的な行動が書かれている部分はどこかに注目。
	問八	具体的事例から当てはまる語句を考える。

☆指導のポイント☆

- 接続語の種類と働きを理解させる。接続語に注意して前後の文章の「要旨」をとらえる→文章全体の「要約」を試みる→「要旨」を中心に各段落の「要点」をまとめる。
- 接続語に注目する→前後の文章のつながりを理解させる→中心となる文や語句を見つける→「要旨」をとらえる→著者の最も言いたい事をつかむという流れを確認しながら進める。

板書例

練習問題

話題 || どうして辞書は「ひく」|| 「引く」ものなのか

◎「ひく」ことができるもの

- ①「弓をひく」…漢字の「引」の中に「弓」という字が入っている
- ②「バイオリンをひく」…バイオリンの弓を自分の方へ引きよせる
- ③「ピアノをひく」…④「琴をひく」…弓のつるを指ではじく仕草→「弾く」
- ⑤「注意をひく」…相手の注意に綱でもかけて引っぱっている様子
- ⑥「風邪をひく」→「田に水をひく」…風邪を外から身体の中に引き込む

「辞書をひく」→これではまだ分かりにくい

◎ことばを選び出すもの→「字引」 || 「辞書をひく」 ※似たような例を見出せる

基本問題2

話題 || どうして赤とんぼは竿の先に止まるのか

赤とんぼ || 変温動物 ↓ 気温が低いと飛ぶことができない

○秋 || 太陽の光を浴びて体温を上げる

赤とんぼ || 止まる向きが決まっている ↓ 必ず夕日の方向に対して横向きになる

理由 || 効率よく体温を上げるため ↓ できるだけ広い面積を日光に当てたい

→ 並んで止まる赤とんぼ ↓ 同じ方向を向いている

○夏 || 体温が上がりすぎてしまう

→ 逆立ちしているように止まっている ↓ 日光を受ける面積を最小限にする

基本問題1

話題 || トンボの目の前で子どもは人差し指をぐるぐるまわす

◎トンボは顔を回しはじめるとおとなしくなったトンボを手で捕まえる

指を動かすこと || 注意が指先に行く ↓ 「非科学的」

ギンヤンマを獲る ↓ 「トンボ釣り」

↓ メスのギンヤンマを回遊させる ↓ オスのギンヤンマが絡みつくと

接続語① ↓ 「あるいは」 || 糸の両端におもりをつける ↓ 空中に投げる

↓ ギンヤンマが絡みついている ↓ 餌と勘違いしている

接続語② ↓ 「いずれも」 || トンボの習性を知り尽くしたトンボ獲り

↓ 昔の子どもの智慧はすごい

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P94)	問一 前後の関係をつかみ、それをつなぐ接続語の種類を考える。 問二 「非科学的」ならば「獲れそうもない」という文脈が考えられる。結果は予想と反しているので「逆接」。 問三 「あるいは」は選択の接続語。したがって「または」がおなじような意味である。 問四 前文から昔の子どもは何を知り尽くしていたのかに注目。
基本問題2 (P95)	問一 文の前半は後半の文につながるの「順接」。 問二 「飛ぶことができなくなってしまう」に続く文はどのような内容なのか注目。 問三 「止まる」という話題に続けて「止まる向き」の話題を続けている。 問四 段落④・⑤のどちらにも説明あり。字数の合うほうで答える。 問五 これまでと逆の内容を説明していることに注目。段落⑦の最初に体温に関する記述があることに気づかせる。
練習問題 (P96)	問一 ① = 逆接 ② = 説明 ③ = 並列・添加 ④ = 転換 問二 「弾く」と書く場合の意味を説明した直前の部分をぬき出す。 問三 ①「自分の方にバイオリンの『弓』を引きよせる」に注目。②「田に水をひく」が「田に水を引き込む」と書かれている部分に注目。③「『ことば』を選び出すもの」という表現に注目。 問四 「引」の漢字の構成を考える。 問五 「弓のつるを指ではじく」に続く内容から、選択肢において適切なものを選ぶ。 問六 ぬき出す部分を間違わないように文の内容をしっかりと読み込む。 問七 文章の後半部分に全体の内容のまとめが書かれていることに注目。

13

物語文 できごとと気持ち

▼指導ページ P 100～107▼

☆指導のポイント☆

- 「出来事・事件→主人公たちの気持ちの変化＝態度・表情・言動に表れる」に注目させる。
このときの言動・心情＝「主題」をとらえる大事なヒント。
- 「出来事や事件のおきる場面」・「その場面での登場人物の言動・心情」＝「クライマックス(＝山場)」

板書例

<p style="text-align: center;">練習問題</p> <p style="text-align: center;">登場人物 次郎・お民・お浜</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">【次郎の行動と情景】</p> <p>暗い道で明りが消える 明りをとって走る ↓ 親しめないお民をおどかしたい</p> <p>暗い道で動かない お浜のところにもどりたいとは強く思えない ←</p> <p>暗い墓地 じっとしていたい ↓ お民のところに行きたくない</p> </div>	<p style="text-align: center;">基本問題2</p> <p style="text-align: center;">【良平の気持ち】</p> <p>いらいら 帰りたい↓帰る様子がない土工たちへの冷淡な態度 ←</p> <p>早く帰りたい 気分をまぎらわす↓トロッコをける・おす ←</p> <p>おどろき 土工たちといっしょに帰ることができない ↓ 自分(良平)の思いと全くちがう</p>	<p style="text-align: center;">基本問題1</p> <p style="text-align: center;">登場人物 良平・土工二人</p> <p style="text-align: center;">【良平の気持ち】</p> <p>よろこび トロッコをおす願いがかなう ←</p> <p>夢中 カいっぱいトロッコをおす ←</p> <p>不安 うすら寒い↓遠くへ来すぎてしまった・あたりが暗くなる</p>
--	--	---

ページ・問題番号	問題	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P102)	問一	「内心」・「思い」に注目。漢数字で答えることに注意。
	問二	3行目「快い」に注意。土工の返事を快くおもった良平の気持ち
	問三	直前の部分「気がかり」に注目。その内容を答えさせる。
	問四	申し出を許してくれた土工に対する良平の感情を考えさせる。
	問五	「うすら寒い＝なんとなく寒い」情景+直後の「遠くに来てしまった」という思いから想像させる。
基本問題2 (P103)	問一	「良平＝早く帰りたい→土工たち＝茶店で休む」状況から判断。
	問二	11行目に注目。トロッコをおしながらも、気がとられていることの内容を読み取らせる。
	問三	「～こと」で答えることに注意。「気持ちをまぎらわせる行為」を直前の部分から読み取らせる。
	問四	土工の「ひとりで帰れ」→「ひとり・暗い」道を帰る→良平の驚きの気持ちを想像。
練習問題 (P104)	問一	草履のならず音＝気になるお民＝23行目に注目。
	問二	いっしょに行きたくない→お民に意地悪をして気持ちをほらす良平の気持ちを読み取らせる。
	問三	設問の答え方の指示に注意。「おさえた」の語のもつ意味から考えさせる。
	問四	直後の部分に注目。「お民に対する良平の気持ち」から判断。
	問五	だれに向けられた感情か＝直前のお民の言葉に注目。
	問六	こわい墓場さえ良平の気持ちを「ほっと」させること＝55～57行目に注目。

14

物語文 人物の性格・考え方・生き方

▼指導ページ P 108～115▼

☆指導のポイント☆

●人物の性格・人物像のとらえ方

人物(主に主人公)の言動(会話)や行動からつかむ。状況やできごとに関連して「周囲の人々との人間関係・その人物を見る目、態度、接し方、言動など」から「総合的に判断=文章全体を読んで判断」すること。人物の性格は、主題と深く関連していることを念頭に置く。

板書例

	<p>練習問題</p> <p>登場人物 アオ・ラン・K君・私</p> <p>物語の流れ</p> <p>①アオ 沼におちる ↓ 体重が重い 人の力で引き上げられない ↓ このままならば 流産・死</p> <p>②ブルドーザー 到着に時間がかかる</p> <p>③トラクター アオの体重が重い ↓ 危険</p> <p>④馬の生産 他人から見れば駄馬 私たちには貴重な馬 ↓ 半野生の生活を送らせる計画 アオを含め馬への深い愛情</p> <p>⑤K君 アオの命をすくいたい ↓ たまりかねる ↓ トラクターをアオの引き上げに使う ↓ 星が見える夜 道を 家にバイクでむかう</p>	<p>基本問題2</p> <p>登場人物 わたし・キクちゃん・先生</p> <p>わたしの気持ち・性格</p> <p>①教科書を持ってこないキクちゃん 頭がおかしい はずかしい</p> <p>②教科書をかっつもらえないキクちゃん 自分の教科書の一さつをあげよう やさしい気持ち</p> <p>③だれにもわからないようにあげよう ↓ 先生にわたしてもらえないようにたのむ キクちゃんにはずかしい思いをさせたくない 思いやる気持ち</p>	<p>基本問題1</p> <p>登場人物 わたし・お母さん・先生・(学校のクラスの)みんな</p> <p>わたしの様子・性格</p> <p>①答えをまちがえる ↓ みんなに笑われる ↓ 消えてしまいたい はずかしい</p> <p>②学校にいきたくない 気が弱い</p> <p>③お母さんの顔色を見てうそをつく あまえんぼう</p>
<p>K君の性格</p> <p>①ものごとを早く決めることができる</p> <p>②すぐに行動を起こす積極的な性格</p>			

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
<p>基本問題1 (P110)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p>	<p>「その日」の出来事に「前の日の出来事」を間にはさんでいる構成に注目。</p> <p>「その」の指示語に注意。直前の部分に注目。</p> <p>「消えてしまいたい」に注目。みんなから「かくれたい」=「はずかしがり屋」。</p> <p>答え方に注意。「ふとんをはぎとる」にも注目→お母さんが「うそ」を見破ったことを読み取らせる。</p> <p>「学校を休みたい」「お母さんの顔色をうかがう」→わたしの気の弱い性格を読みとらせ</p>
<p>基本問題2 (P111)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p>	<p>23行目以降「次の日=キクちゃんにあげた」なので、「その日」はその直前の部分注目。</p> <p>「理由」を答えるのだから「～から」で答えさせる。13行目注目。</p> <p>直後の「だれにも教科書をあげることをわからないようにしたい」という思いから推測。</p> <p>18行目に注目。「わたし」がいろいろと考えたのは「なぜか」を考えさせる。</p> <p>「キクちゃんに他の生徒にわからないように教科書をあげる=わたしの思いやり」を読み取らせる。</p> <p>「キクちゃんの気持ちを考えた行為=心づかい=思いやり」に気づかせる。</p>
<p>練習問題 (P112)</p> <p>問一</p> <p>問二</p> <p>問三</p> <p>問四</p> <p>問五</p> <p>問六</p> <p>問七</p>	<p>「彼ら」=人を表すことば=直前の部分に注目。</p> <p>設問中「ねころぶ」に注目。馬のねころぶことに関係することがら=24～29行目に着目。</p> <p>雑誌記者の会話中の疑問に、「私」が答えている箇所をさがさせる=34行目注目。</p> <p>「高価ではない」=「私にとって貴重→事故にあって死ぬ危険を心配」を読み取らせる。</p> <p>16～19行目「トラクターは危ない=私の主張」をK君は「だけど」と打ち消している点に注目。</p> <p>30～40行目=「私」の「馬」を育てる目的や気持ちが描かれている箇所に注目。</p> <p>「トラクターを取りにバイクを走らせる」K君の行動を性格に結びつけて理解させる。</p>

板書例

2

登場人物 父・姉・祖母・主人公(語り手・弟)

(父)「盆」に家へ急にもどってくる↓みやげ↓えびフライ
えびフライ 姉・祖母・主人公の3人とも↓知らない

主人公(語り手・弟)
↓「えびフライ」↓気にかかる・姉や祖母にたずねる
↓ものを知らうとする強い気持ち

姉
↓ものを教わりたくない・わからないことを知られたくない
↓人に負けたくない気持ちが強い

祖母
↓父がもってくるみやげ↓おいしいに決まっている
↓素直に父を信じる気持ち

1

話題 発見 : コロンブス ↓ アメリカ大陸 ・ キュリー夫人 ↓ ラジウム

発明 今までなかったものをつくり出す

発見 昔から存在していたがだれも気がつかなかったもの

◎ 「美しさの発見」 ↓ 芭蕉の一句 : 感受性の世界を大きく広げた
美しさ 内在しているながらそれまで気がつかなかった特殊な性質、価値
← われわれは何らかの手段で受け取る、感じ取る

○ 美しさ 本質的な対象そのものを持つ性質
※ 芥川龍之介 ● 美しいもの 「雲」 : 鋭敏な感受性の持ち主
先生はおかしいとしかかった

◎ 「美しい」と感じる人間の「心」の方にある 灯火のようなもの
← 内在しているある種の性質と考えていたことをも裏づけている

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
1 (P116)	<p>問一 「発明」と「発見」の違いを文章中から探す。</p> <p>問二 アは「逆接」、イは「選択」、ウは「順接」、エは「選択」。</p> <p>問三 「発見」の定義を文中から探し出し、それをを用いる。</p> <p>問四 指示語が示すものを直前の文から探し、文中それぞれの「それ」について当てはまる部分を抜き出す。</p> <p>問五 芭蕉の発見=すみれの花そのものではないことに注意する。</p> <p>問六 ア・イ・エは美しさの「内在するもの」、ウは「人間に害を与える」が間違い。</p> <p>問七 「逆接」→芥川龍之介の「雲」に対する感覚を文中から読み取る。</p> <p>問八 「美しさ」=「内在しているある種の性質」という部分に注目。</p> <p>問九 直後の文から「人間の心の中に～」の部分から例えにあたる部分を抜き出す。</p> <p>問十 「美しさ」は「対象」のなかに存在するのか、人間の「心」のなかに存在しているのかを考えさせる。</p>
2 (P119)	<p>問一 1 「面食らう」に注目。 2 「～と思う」から判断。 3 残りの選択肢アカウ。「その気」からア。</p> <p>問二 この物語の場面は「主人公が父のために川で釣りをしている」ときのことに気づかせる。</p> <p>問三 直前の「姉」の言葉に注目。</p> <p>問四 「書きぬく」ことに注意。父が食べたいもの=生そばに注目。</p> <p>問五 「ひやり」とした理由=直後の文に注目。</p> <p>問六 「顔を見合わせる=事情がわからないでおどろいた」→この事情の内容や3人のおどろいた様子を28～48行目に注目させて、書きぬかせる。</p> <p>問七 「自分もえびフライがどんなものか知らない+にこりともしないで弟との会話をさける」ことから姉の気持ちを想像させる。</p> <p>問八 「父親」のやることに間違いはない、という素直で素朴な祖母の性格を読み取らせる。</p> <p>問九 「時」を表す語に注目。30行目に注目。</p> <p>問十 「えびフライ」を主人公なりに具体的にイメージしている場面=52～58行目に注目。 弟と張り合っている様子が、19・20行目や50・51行目に見られることに注目。</p>

16

説明文 全体の内容を正確につかむ(1)

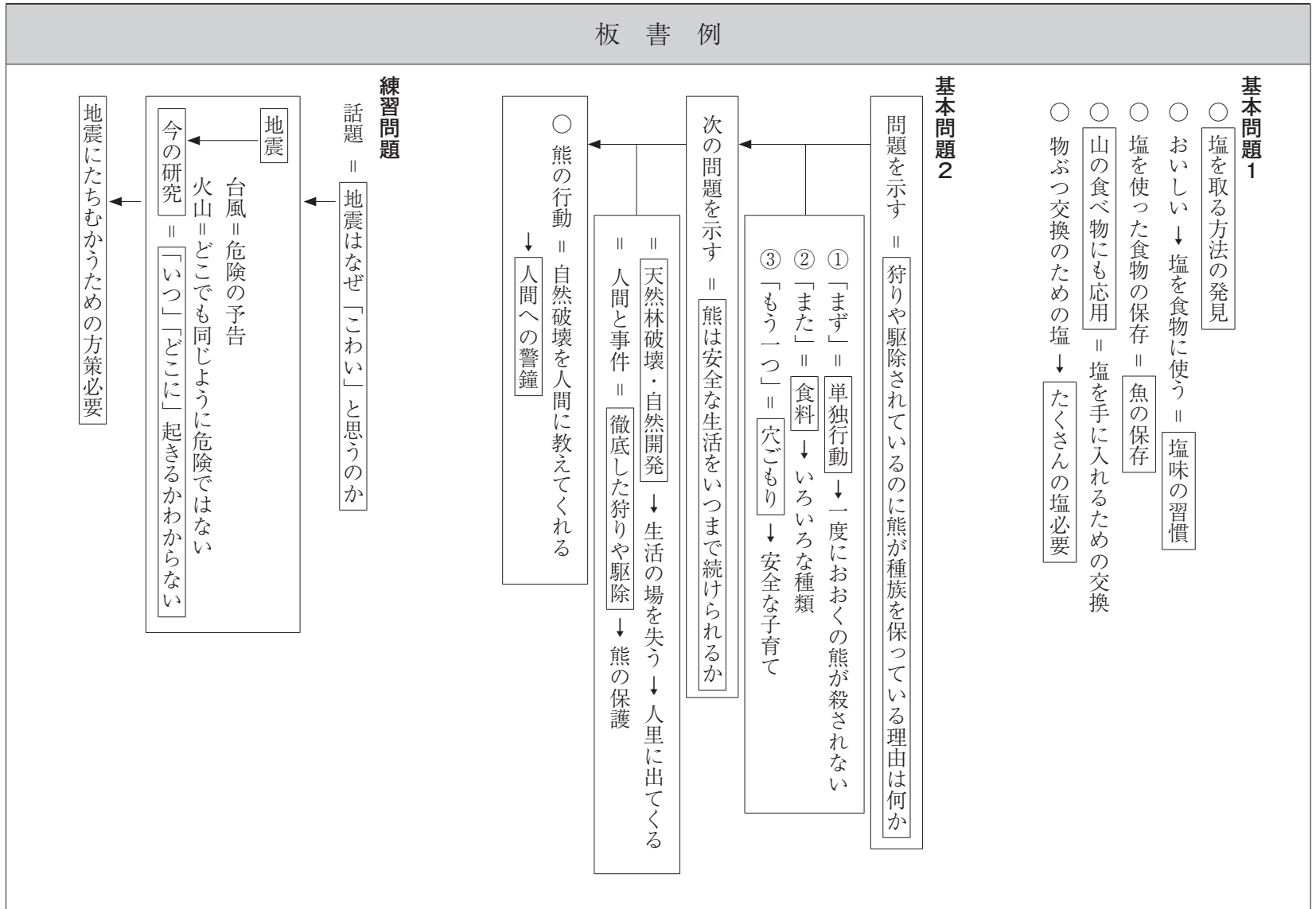
▼指導ページ P 124 ~ 131 ▼

☆指導のポイント☆

次の事項を区別して、文の内容を整理し正確につかむ。

- 要旨=筆者のもっともいいたいこと。
- 要約=要旨を含め文章全体の要点を短くまとめたもの。
- 要旨のまとめ方=意味段落のうち、結論の部分から、その要点をまとめる。
- 要約のしかた=形式段落を意味段落にまとめる→それぞれの意味段落の要点をつなぐ。
=文体は常体(「だ・である」を文末に使う⇔敬体)で統一。

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など				
基本問題1 (P126)	問一 指示語の指示する部分=直前の文に注目。 問二 段落③最初の語「それ」に注目。②を指している。その内容は、「それ」以降に記述。 問三 ④「交換」に注目。交換するもの何かを読み取らせる。⑤「必要」に注目。何が何ために必要か、を読み取らせる。				
基本問題2 (P127)	問一 話題転換=「では」に注目。 問二 事柄を並べて述べる時につかう「まず」「また」「もう一つ」の語に注目。 問三 直前の段落の「熊の行動」=18行目の熊が引き起こす「事件」の内容に注目。 問四 「書きぬく」ことに注意。自然の破壊についてその内容が記述された部分の22行目注目。				
練習問題 (P128)	問一 「地震=こわいと思う」=話題提示=段落③以降のそれぞれの段落の書き出しに注目。段落⑩以外は前段の内容を受けて話を展開していることに気づかせる。 問二 「地震=いつ・どこで起きるはわからないおそろしい災害」→まとめて答えているのは段落⑨。 問三 「他の災害」について、「地震」=「どこで・いつ起きるかわからない」点から「ちがひ」に注目。 問四 <table border="0" style="width:100%; border:none;"> <tr> <td style="border:none;">A 提示された話題への「答え」=理由</td> <td style="border:none;">B 「おそろしい災害」→「命を失う」=順接</td> </tr> <tr> <td style="border:none;">C 「命を失う」+「社会の働きに被害」=添加</td> <td style="border:none;">D 「こわい」→「くるときはくる」=逆接</td> </tr> </table> 問五 「そう」の指示している部分=直前の文に注文。 問六 「書きぬく」点に注意。筆者の主張=本文の最後または最初の部分に注目させる。 問七 方策=対策。地震対策研究の方向を段落⑧から想像させる。	A 提示された話題への「答え」=理由	B 「おそろしい災害」→「命を失う」=順接	C 「命を失う」+「社会の働きに被害」=添加	D 「こわい」→「くるときはくる」=逆接
A 提示された話題への「答え」=理由	B 「おそろしい災害」→「命を失う」=順接				
C 「命を失う」+「社会の働きに被害」=添加	D 「こわい」→「くるときはくる」=逆接				

17

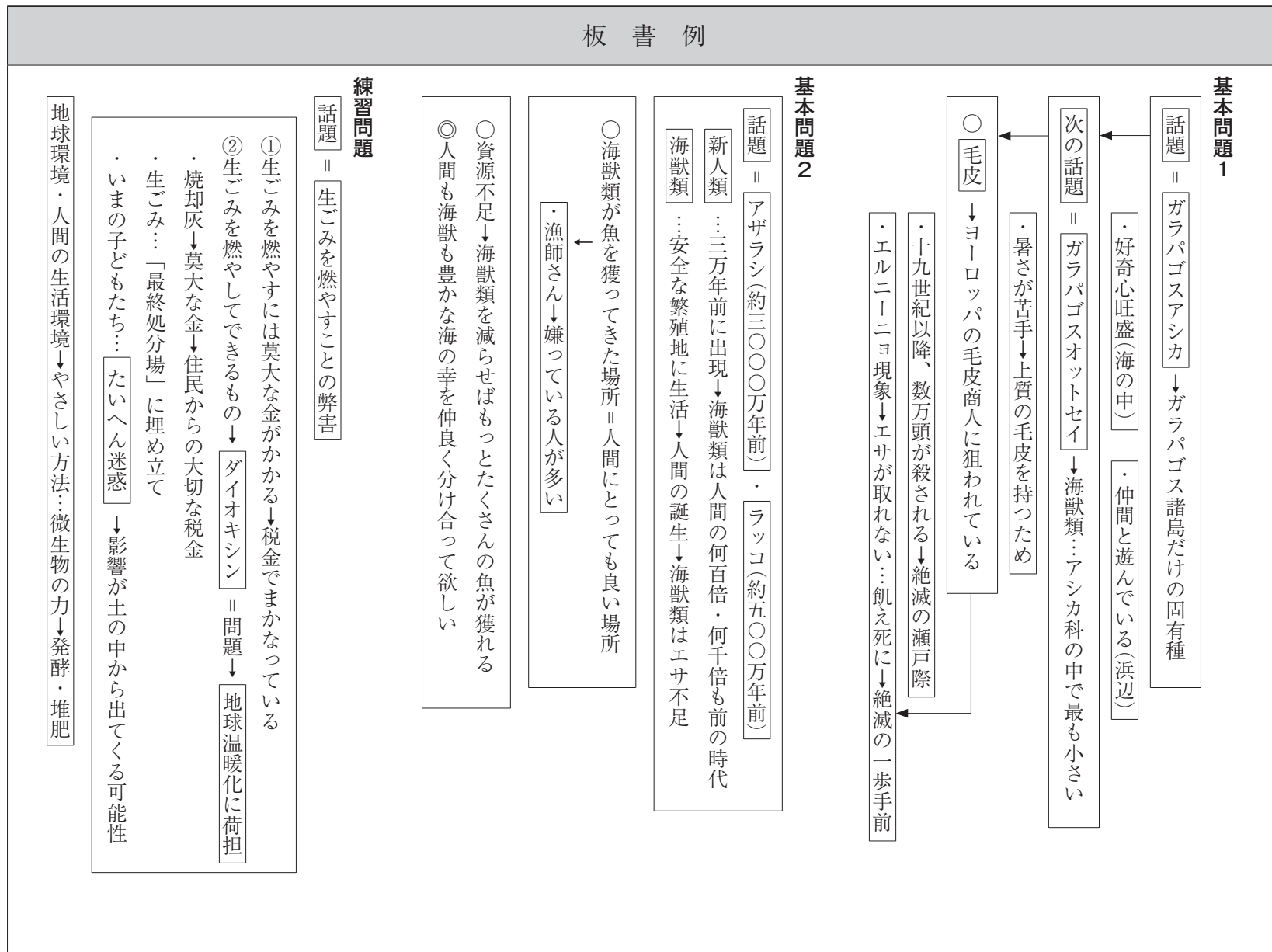
説明文 全体の内容を正確につかむ(2)

▼指導ページ P 132 ~ 139 ▼

☆指導のポイント☆

- 説明の流れ→例とまとめの関係をおさえる→できごとの起きた原因と結果の関係をおさえる→結論とそれを導き出した部分の関係をつかむ
- 説明文の構成を理解する→話題・例・まとめ・著者の考え→初めと終わりの部分に注目→著者が文章の中で最も伝えたかった事は何かを理解させる

板書例



ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P134)	問一 「ガラパゴスアシカ」について述べられているのは段落①のみであることに注意。 問二 段落②の最初の部分、「もう一種類の海獣類」という部分に注目。 問三 ガラパゴスオットセイが絶滅しそうな要因→二つのできごとに注目。 問四 文全体を読み取ると、ガラパゴス諸島の海獣類の生態と現実について書いてある。
基本問題2 (P135)	問一 「たくさんの魚が獲れるようになった」→海獣類…「エサ不足」・「網にかかり溺れ死ぬ」。 問二 年代の説明は段落①・②にあるので、そこから読み取る。 問三 海獣類に対しての人間の考え方を探す。 問四 各段落の内容を確かめる。段落③～⑥から、海獣類たちがおびやかされている様子が読み取れる。 問五 段落⑦の最初の一文、「同じ地球で仲良く暮らして～」という表現に注目。
練習問題 (P136)	問一 (1)装置の値段を示すことで伝えようとしているものは何か。「数十億円」に注目。 (2)「それはすべて税金でまかっているのです」→「それ」は自治体のごみにかけている費用。 問二 □1 = 順接。□1 の前後は理由と結論の関係。 □2 = 転換。灰の成分の話から処理方法の話題に転じている。 問三 「焼却灰」について④段落から読み込み選択肢を選ぶ。 問四 何が今の子どもたちにとって「迷惑なこと」なのか、前の部分に注目。 問五 段落①は生ごみを燃やす弊害、段落②～⑥は燃やす弊害の内容説明、段落⑦はよりよい処理方法。 問六 生ごみを燃やす弊害は段落①に、お金がかからない堆肥については段落⑦にはっきりと書かれている。

18

物語文 主題を正確につかむ

▼指導ページ P 140～147▼

☆指導のポイント☆

- 主題=作品で作者が読者にもっとも伝えたいこと。
- 主題は「説明文のように明確にのべるのではなく、主人公の行動・生き方・心情・性格」を通じて間接的に伝える。
- 主題を読み取る手順。
 - ① 「場面ごと」「情景ごと」→主人公の言動・心情をまとめる。
 - ② ①から、総合的に主人公の性格・人物像をとらえる。
 - ③ ①・②をふまえたうえで、重要な出来事・クライマックス(感動をもちあげる場面)で主人公の行った行動・心情から、主題をつかむ。

板書例

基本問題1

登場人物 || 大造じいさん・残雪(がんの頭領)・ハヤブサ

場面1 || 大造じいさんが残雪を銃でうつのをやめる

↓ 仲間のがんを救おうとする残雪の姿

↓ 何かを感じた大造じいさん

場面2 || ハヤブサと戦う残雪

↓ 傷つき死をむかえる残雪

↓ 大造じいさん(人間)を「にらみ」かえす

↓ 「頭領」らしい堂々とした姿 ↓ 大造じいさん感動

基本問題2

登場人物 || 少年・海鳥

場面1 || 道ばたにすわりこむ少年 ↓ 山をいくつもこえて来た

↓ 海につかない ↓ 体も心もつかれた

場面2 || 頭上を飛ぶ海鳥 ↓ 海鳥の行く先に海があるようだ

↓ 少年にすこしの希望

結末 || 落ちてきた海鳥の羽毛 || 海鳥からのおくりものと思う少年

↓ 少年は再び海へむかう気持ち

練習問題

登場人物 || ひさし・父親

場面1 || ひさしは列車の出發まもなく歯痛

↓ 「父をこまらせたたくない」ひさしの気持ち || がまん

場面2 || がまんできない痛さ || ひさしは父親に表情で知らせる

↓ 父のこまった表情 || あらためてがまんしようと思う

場面3 || ひさしの歯痛を直す楊枝をつくるために、父が祖父ゆずりの

扇子を引きさいた ↓ ショック || ひさし

結末 || 歯痛がひく ↓ 父にすまないという気持ち

|| ひさしは自分を責める

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P142)	問一 「残雪」は「がん」の頭領=がんに助ける→「仲間」=6行目注目。 問二 直後の文に注目。 問三 ① 「よろめき」に注意。 ② 「整える」に注意。 ③ 「紅」=「血の赤色」→「けが」をしていることに注意。 ④ 「持ち上げる」に注意。 問四 「けが」=「血の赤」=「紅」に注目。 問五 「敵=大造じいさん=人間」を読み取らせる。 問六 「20行目～最後まで」の部分に注目。大造じいさんが感動したことを読み取らせる。
基本問題2 (P143)	問一 時間を表す語に注意。9行目に注目。 問二 少年を立ちあがらせたもの=14・15行目に注目。 問三 坂・山をいくつも越えて来た→すぐには希望をもてない少年の心境を読み取らせる。 問四 少年が再び海を目指す強い決意=文の主題=最後の部分に注目。 問五 最後に少年に海を目指す力をあたえたもの=「一枚の海鳥の羽の毛」=「ささやかな」ものに注意。
練習問題 (P144)	問一 ① 「～ならない」対の語 ② 「～らしい」を入れて通じる対の語 ③ 「さらに加えて」の意味の語 ④ 「予想外に」の意味の語 ⑤ 「持ち歩く」状態を表す語 ⑥ 「失っても残念と思わないで」の意味の語 問二 (1)表情に注意。18行目に注目。(2)「痛みがなくなる」状態を描いた部分に着目。40行目に注目。 問三 「ひさし」は父に心配させたくない・困らせたくないという思いが強い点から判断。 問四 扇子のこと=34・35行目に注目。 問五 扇子を引きさいた父の行為に対する「ひさし」の感情=33行目注目。 問六 「痛みのため父に知らせる→やはり父を困らせた=自分(ひさし)の弱さ=後悔」を読み取らせる。 問七 「父を思いやるひさし」+「ひさしのために扇子を引きさく父」→互いを思いやる心を読み取らせる。

☆指導のポイント☆

- 詩に特有の表現技法について例をあげて説明→板書例。詩は次第に感動を盛り上げていくようなつくりが多い。さまざまな技法がこらされる。その「技法がこらされた箇所」＝「ふつうの文章とはちがう表現が目立つところ」に感動の中心。
- 詩の主題＝表現技法に注目→感動の中心をおさえる。

板書例

● 体言止め

＝ 行末に名詞をおいて後に残るひびき(余韻)が気持ちを強める

(例) 早くみたいな海の底
早くいきたいな森のなか
待ち遠しいな夏休み

● 反復法

＝ 同じ語句の反復(くりかえし)

(例) 新しいスケッチブック
新しい昆虫あみ
新しい水中メガネ

● 倒置法

＝ 語順を逆にして感動を強く表す

(例) 早くみたいな／海の底
早くいきたいな／森のなか
待ち遠しいな／夏休み

← ふつうの語順

海の底を早く見たいな
森のなかに早くいきたいな
夏休みが待ち遠しいな

● 擬人法

＝ 人でないものが人のようにふるまう

(例) 新しい水中めがねが／おしゃべりをしている
風がきいていった

【主な詩の技法】

● 比喩(ひゆ) 「たとえ」

直喩(ちよくゆ) 「〜のような」など 「たとえ」であることをはっきりと示す

隠喩(いんゆ) 「私たちは小さな舟のようにふるえた」

＝ 「たとえ」であることをはっきりとは示さない

(例) 雄弁は銀、沈黙は金

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
基本問題1 (P150)	問一 場面の転換＝時を表現する語に注目。「ゆうがた」＝11行目に注意。
	問二 私が答えているのだから、7行目の直前の行に注目。
	問三 6行目注意。「お金がなくて買えない＝貧しい」状況を読み取らせる。
	問四 8行目から「子供」の様子＝8行目注目。
	問五 8行目＝「親の言うことに対してわがまを言わない子＝聞き分けのよい子」に注目。
基本問題2 (P151)	問一 倒置法が使われていることに注意。
	問二 「夏休み」に注意。表現の型が同じことにも気づかせる。
	問三 「会話」＝「おしゃべり」に注意。直後に「おしゃべり」の内容記述＝倒置法にも気づかせる。
	問四 (1)(2) 「みんな」＝複数＝同じ種類の語が並べられている部分に注目。行為を物がする＝擬人法。
	問五 繰り返し使用されている語＝キーワードを探させる。ここでは「夏休み」。
練習問題 (P152)	問六 「ぼくの部屋のスケッチブックなどの言葉＝ぼくの気持ちを表した言葉」という点を読み取らせる。
	問一 解説文で「遠くのこと」に関することが書かれている部分の10行目注目。
	問二 (1)(2) 解説文の「風」に関する記述部分＝3・4行目注目。
	問三 「だまりこむ」に注意。解説文中の11行目に注目。
	問四 詩9・10行目＝解説文13・14行目以後注目。具体的な内容＝解説文15行目。
	問五 詩14行目＝解説文13・14行目以後注目。「新聞紙」→「報道」の連想から解説文18秒目注意。
	問六 詩13行目～17行目＝「近くのできごと」への「人」の反応が異なる点に着目。「報道と同じ意見」ではない「自分の意見」＝「それぞれ個人の考え・本心」という点に思考をつなげさせる。
	問七 解説文で直後の部分から「風はすべてのことを知っている」といったことが書かれている点に注目。「知っていること」＝「こわい」＝「真実を見ている」という点に発展させる。
問八 「できごと」に対する「人」の反応の違いを表している部分のはじめを探させる。詩17行目注意。	

20

第16回～第19回のまとめ

▼指導ページ P 156～163▼

板書例

3

1～4行 || 今年 || 暖かい靴下 ↓ 喜び || プレゼント || 愛子が喜ぶ || 幸せ

5～16行 || 過去 || 古い靴下 ↓ 古いお人形 || 家にあったものを入れた

|| 愛子のさびしい顔 || 貧しい || 愛子にさびしい思い || 悲しい

17～22行 || 今年 || 愛子の喜ぶ気持ちを感じる ↓ 自分も || うれしい

23行 ↓ 最後 || 私の祈り || 愛子を喜ばせることのできる || 幸福が続くこと

2

場面1 || 小百合の家の前 ↓ 心平・小百合 || 仲良し

場面2 || 英蔵らと出会う

↓ ① 英蔵 || 賞を取ったことを || 自慢・心平に || 尊大

② 心平 || 英蔵の自慢・からかいを || 気にとめない

場面3 || 心平のスケッチブック || 小百合の魅力的な絵

① 英蔵 || 小百合と心平の友情 ↓ くやしい

|| 心平の絵が自分の絵より魅力がある ↓ 心が傷ついた

② 心平 || 絵をけなされても || 気にしない

↓ 絵そのものを楽しみ || 気持ち

1

話題 || お米の長所

- 保存 || 長い期間(もみ・干し飯)
- 栄養がある(質の良いたんぱく質)
- 栄養のバランスがよい
- ① せまい土地 ↓ たくさん ② 同じ土地 ↓ 毎年
- 味がおいしい
- 長所のまとめ || 米 || 食糧の中で理想的なもの
- 米が日本に伝わってきた時代 || 縄文時代

ページ・問題番号	指導内容・留意事項など
1 (P156)	問一 A 「給料」のかわりになった = 結果 B 内容を付け加えている = 添加 C 具体例をのべる = 例示 D 「2年間土地を休ませる小麦」 → 「毎年つくることができる米」 = 逆接 問二 話題の提示 = 段落②に注目。 問三 それぞれの段落の最初の部分に注意。 問四 指示語の指示部分を問う設問。「保存」という点から直前の部分をまとめさせる。 問五 直前の段落⑫であげられている栄養分を書きぬかせる。 問六 ④の含まれている米の第四の長所を述べた部分 = 段落⑮～⑲の内容をまとめさせる。
2 (P158)	問一 1 仲の良い2人が心を確かめ合った笑い。 2 相手を見下して冷やかす笑い。 3 「まま」に注意。 4 「ため息」に注目。 問二 時期を表現する語 = 3・4行目に注目。 問三 直前の「ほこる」に注意。自慢して、得意になって「見た」ことを読み取らせる。 問四 「アキラ・ヒロシ = おどろいた様子」を読み取らせる。 問五 英蔵の心平の絵に対する評価 = 67・68行目に注目。 問六 「英蔵の絵が賞をとったこと」や「自分の絵に対するからかい」 → 「気にしない」心平の絵に対する気持ちを考えさせる。 問七 全文と通じて、「心平・小百合」と「英蔵」の心の動きが描かれていることに注目。「心平と小百合の心の交流」と「心平に対する英蔵のくやしき」の2点が主題。
3 (P161)	問一 「つめこむ・おく・とりだす」といった表現から判断させる。 問二 5行目から「過去」の場面。「この場面が示している状況 = 貧しさ」に着目。 問三 「冬」「靴下」「喜び」「人形・玩具」からクリスマスのプレゼントと推測させる。 問四 (1) 「胸を張る・足を伸ばす」 = 「安心・充実感」を感じさせる表現と認識させる。 (2) 「貧しさからプレゼントを買えなかった昔 ⇄ 喜ばすことのできるプレゼントを買えた今年」 → 「今年 → 愛子を喜ばせることができた = 幸せ = 満足」の流れを読み取らせる。 問五 倒置法が使われている。「主語 = 私」「述語 = きいていた」を把握させる。 問六 「時」の転換を示す「いつか」注目。「今—過去の思い出—今」の構成。